



21世紀の森と広場



とんぐい

パークセンターだより 第82号 2006年12月・2007年1月号

シダとなかよくするには

自然解説員
かわばたしろうこ

(1) どんなところにはえているの？

林の中をのぞいてごらん。奥のほうの暗いところより、林のまわりのちょっと明るいところのほうがたくさん種類がみつかるよ。もちろん庭のようなたいらなところやよく日のあたるところ、岩の上や崖地^{がけち}、水の中でもシダのなかまはがんばっているよ。でもよくみてごらん。乾いたところでは特殊なもの以外はほとんどみつからないね。しっとりと水分を含んでいるところや岩の上や崖地でも小さなくぼみがあってコケがはえたり、水がたまりやすいところではみつかるかもしれないよ。なぜだろう。植物が生きていくのに水はなくてはならないものだけど、シダのなかまが子孫を残すためにはどうしても水の働きが必要なんだ。一滴の水でいいのだけれどね。シダのからだを離れた孢子^{ほうし}



Bllypodium Thunbergianum Makino
57 12

は芽をだすと小さな(5mm以下)前葉体というハート型の植物体をつくる。この前葉体の上に雄器^{ゆうき}と雌器^{しき}(花でいう雄しべと雌しべ)ができ、水がくると雄器

から精子が出てきて水の中を泳いで雌器にたどりついて受精が行われ、はじめてシダの形の植物が芽を出すのだよ。だから小さなシダが芽を出しているところをよく探すと前葉体が見つかることがあるよ。赤土のがけみたいなところはみつけやすいよ。

(2) 見分けるにはどうしたらいいの？

ほとんどのシダの茎くきは土の中や地面や樹皮や石の上をはっている。なかにはカニクサのようにつるになってほかのものにからまる変わり者もあるけどね。だから、私たちが目にしているものは一枚の葉だということ覚えておいてほしい。

- ・シダには常緑（一年中緑色の葉があるもの）のものと夏緑（冬は葉が枯れてしまうもの）のものがある。

常緑のもの

ノキシノブ、ヤブソテツ、イタチシダ、イワガネソウ など

夏緑のもの

ワラビ、ゼンマイ、イヌワラビ、クサソテツ、カニクサ など

・葉の形は

単葉・・・ノキシノブのなかま、マメズタ、ヒトツバ など

単葉だけど切れ込みのあるもの・・・ミツデウラボシ、シシガシラ など

複葉・・・1回羽状複葉うしゅうふくよう・・・イノモトソウ、ゲジゲジシダ、クサソテツ
ヤブソテツ・・・

2回羽状複葉・・・イタチシダのなかま、ゼンマイ、トラノオシ



ダ、イノデのなかま、イヌワラビのなかま など

3回羽状複葉・・・ワラビ、リョウメンシダ など

変わったつきかたをするもの・・・ウラジロ、ジュウモンジシダ、ハナワラビの
なかま、シノブ、クジャクシダ など

シダのように見えないもの・・・トウゲシバ、マンネンスギ、スギナ、トクサ、
クラマゴケ、ヒカゲノカズラ、デンジソウ、ミ
ズワラビ、ミズニラ・・・

・葉の裏にできる^{ほうしのうぐん}孢子嚢群（ソラス）の形や大きさ、ついている場所も見てみよう。

種類によって全部ちがうよ。丸かったり、
三日月形や葉のふちに袋状になってついでいたり、大きかったり、小さかったり、
膜があったり、なかったりとさまざまなんだけど、これも名前を調べる大事な目安になるんだよ。あと、孢子嚢が葉のどの位置についているかもね。葉の裏全面についていたり、葉先から1/3までについていたり、孢子葉という特別の葉をつくっていたり
と一つ一つシダの種類によって決まっているのでその違いをみつけることが大切なんだ。それでも見分けられなかったら、葉の付け根に付いている毛の形からも見分けることができるよ。それから葉の先が伸びて新しい個体をつくるもの（クモノスシダ）や葉の上に子供をつくるもの（コモチシダ）もあるからよくみてね。

さあ、みんな同じに見えてしまうといっていないで挑戦してみよう。特徴のあるのから覚えると楽しくなるよ。



日本水仙

みどりの相談員
あおしまなおすけ
青島尚祐

スイセンは種類が多くて栽培の歴史も古くよく知られた植物で、室町時代にはすでに植えられていたが日本古来の植物ではなくて、地中海沿岸が原産のものが中国にもたらされ、それが日本に渡ってきたのだという。海岸に群生地があるため海流によって運ばれたのではないかとされています。有名な群生地



地としては福井県の越前岬、淡路島、伊豆の爪木崎、南房総の保田水仙の里などがあげられます。日本でスイセンといえば日本水仙のことですが水仙にはたくさんの種類があり、園芸分類で12部門に分けられ、その一つにフサザキスイセン（房咲水仙）という部門があり、日本水仙はその中に含まれます。

香りがよく切り花にもなり、花の需要の多い暮れから正月にかけて咲き、栽培も簡単という優れ物です。唯一問題なのは関東南部以西の海岸近くに自生しているもので、松戸辺りでは冬の寒さで花や葉が傷むことです。枯死するようなことはないが咲く時期が一定せず、葉先が枯れると切り花には困ります。南房総では12月に一斉に咲いてくるが陽だまりに対して風通しのよい所では遅れて咲きます。一本に3～10輪ぐらいが次々と咲くので一ヶ月ぐらいは咲いています。松戸辺りでは2月頃までぱらぱら咲いていることが多いです。プランターや鉢植えにすれば陽だまりに移動できるので都合がよいのですが、水かけなどの手間がかかります。

庭植えの場合は放任して置いても咲くが、混み過ぎると咲かなくなるので3年に一回ぐらいは植え替えた方がよいでしょう。5～6月に葉が枯れて来たら掘りあげて球根だけ網袋に入れて風通しのよい日陰に保存します。8月下旬から9月上旬に、植える場所の土を12cm程どけて、その下を堆肥を撒いて耕し、平らにならしてから球根を球根の幅の3倍ぐらいの間隔を開けて据え付け、どけて置いた土をその上に戻します。小さな球根は花芽が無いので大きな球根の間に入れるようにします。9月に根が伸び10月には葉が伸びて12月には花が咲いてき

ます。

鉢植えの場合は5～6号鉢に3球植えとします。鉢穴を網でふさぎ荒い土を少し入れて草花用の培養土を八分目ほど入れ、球根を正三角形になるように据え付けて土を加え球根の頭が僅かに^{わず}かに出るくらいにします。乾かないように管理し、葉が出てきたらよく日に当て、霜が降りるようになったら軒下など陽だまりに置きます。8月下旬に植えれば12月には咲いてきます。室内に入れて暖めてはいけません。

みどりの相談室

パークセンター「みどりの相談室」では、相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問に無料でお答えします。電話でもお受けしていますのでお気軽にご相談下さい。

【相談日】 水・土・日曜日と祝日

【時間】 午前10時～12時・午後1時～3時30分

【電話】 047-345-8738
ハナミツバチ

12月・1月の催し物

講座	日時	対象・人数	講師	費用	受付
野草ウォッチング (雨天中止)	平成18年12月2日(土) 10:00～11:30	どなたでも 当日先着25人	自然解説員 加藤裕一氏	無料	当日 受付
みどりの講習会 「室内で楽しめるクリスマス の寄せ植えとトピアリー」	平成18年12月9日(土) 13:30～15:00	どなたでも 30人	ガーデンコーディネーター 杉田佳子氏	2,000円	11/15～
園芸教室 「生ヒバで作るクリスマスリース」	平成18年12月10日(日) 13:30～15:00	どなたでも 20人	みどりの相談員 丸尾三恵子氏	2,000円	11/15～
みどりの講習会 「ミニ門松作り」	平成18年12月16日(土) 13:30～15:30	どなたでも 20人	千葉県立流山高等学校 高野泰信氏	1,000円	12/1～
バードウォッチング (雨天中止)	平成18年12月17日(日) 10:00～11:30	どなたでも 当日先着25人	自然解説員 直井宏氏	無料	当日 受付
自然観察会 「ねずみ、増えたり減ったり～ねずみ算は本当？」	平成19年1月14日(日) 13:30～15:00	どなたでも 40名	自然解説員 黒江美沙子氏	無料	12/15～
園芸教室 「シクラメン・シビヅル・カンラン・ポインセチアの育て方」	平成19年1月21日(日) 10:00～11:30	どなたでも 45名	みどりの相談員 小林喜代次氏	無料	12/15～
園芸教室 「梅の剪定(実習有)」	平成19年1月28日(日) 10:00～11:30	どなたでも 20名	みどりの相談員 野口宣二氏	無料	12/15～

注) 予定に変更が生じる場合がございますので、詳細はパークセンターまでお問い合わせ下さい。

埒（ねぐら）

自然解説員
いまむらひろゆき
今村裕之

鳥っていつ寝るのでしょうか。もちろん夜寝るのです。（なかには昼間寝ている鳥もいますが）

みなさんの家の近くでは、庭木の中などで寝ています。もちろん21世紀の森と広場でも小鳥たちは寝ているでしょう。夜寝ているところはなかなか見つけにくいのですが、翌朝になると地面に糞がまとまって落ちているので昨夜はここで寝ていたのだなと気がつくでしょう。



これからお話しする鳥達は春になると餌を取る時も飛んでいる時もいつも2羽でいることが目に付くようになります。

代表的なスズメ、ムクドリ、カラスでお話ししましょう。

- スズメ -

スズメのお宿は竹林ちくりんでした。ふた昔ほど前などは農家の裏庭の竹林に何千羽のスズメが埒をとっていましたが、今ではその竹林がありません。人家から離れた竹林は埒としてあまり使わないようです。最近見た埒は県道に面した交差点の近く3～4mのミカンえさの木に夕方になると4～5羽づつの群れが何度となく入って行きます。小さな埒を作っているのです。

- ムクドリ -

以前は常盤平駅前のケヤキの木に何万羽と言うムクドリが夕方になると、どこからともなく現れ声がうるさいのと糞公害などで嫌われ者でした。

なぜムクドリは大きな群れになるのか、なぜ駅前などに集まるのか、本当のところはわかりませんが、外敵から身を守るには1羽でいるよりも群れでいたほうが安全だし、駅前だと真夜中だって明るいでしょう、身を守るには最適なんだと思います。真っ暗闇の大きな森で寝るよりも駅前の明るいところの方が安心できるのでしよう。

今では八柱駅前、新松戸駅のケヤキ並木に6～7月頃から集まり始めます。八

柱駅前はローターリーのケヤキに壱を作るので、声はうるさいが糞公害で悩むことは少ないでしょう。ここには数万羽のムクドリが押し寄せて来ます。日の入前にはだいぶ高いところを飛んでいます、時間がたつにつれ黒雲のように移動しながら降りてきます。数の多さに驚くと同時にあのスピードで鳥どうしぶつかりはしないかと・・・

新松戸のケヤキ並木ではブリキのバケツで^{ばくちく}爆竹を鳴らしムクドリを追い払うと聞いたことがあります。それは一時です。他へ移動したムクドリは向うで追われれば又こちらへもどって来てしまいます。ケヤキ並木の木々が葉を落とし始めると大群でいたムクドリは1羽去り2羽去り葉が全部落ちるころにはケヤキ並木にはムクドリがなくなります。あんなに沢山いたムクドリはどこへ行ったのだろうか。このころ^{くさはら}草原とか広場で見るとムクドリは2羽で行動していることが目に付きます。カップルが出来ているのです。4～5月頃には子育てを始めます。6月も半ばになると家族で移動して行くのを見かけます。秋にはまたあの大群になるのです。

- カラス -

カラスはスズメ、ムクドリとちがい壱を1年中使っています。21世紀の森と広場で遊んでいたカラスが近くの壱に入ります。下の表は2005年度1年間の壱入時の^{はすう}羽数の変動(図1)と日の入り前後2時間の羽数の変動(図2)を表にしてみました。

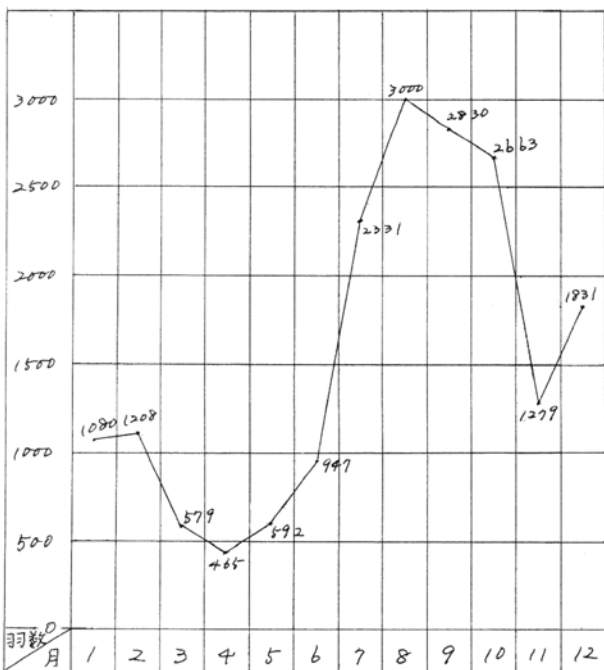


図1 2005年(17年)月別壱入個体数

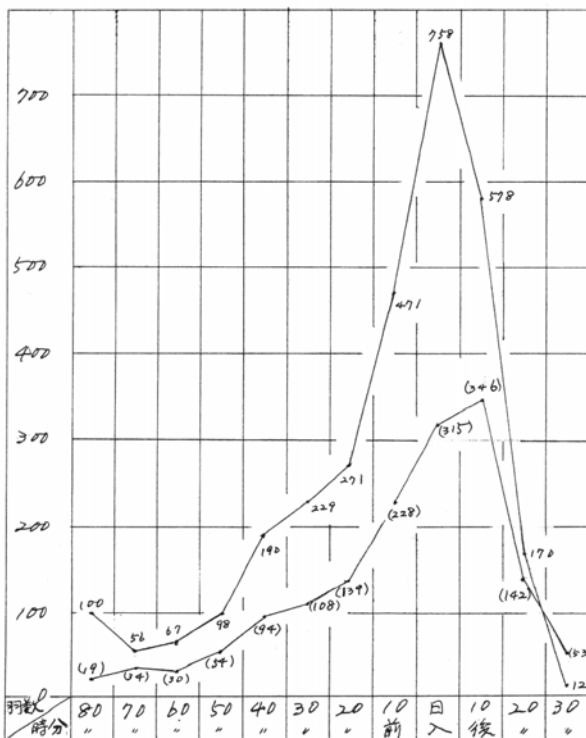


図2 2005年(17年)8月 日入前後壱入個体数(1)内年平均

月別では4月のように500羽以下なのに8月では3,000羽にもなりました。なぜこんなに変動があるのでしょうか。3、4、5月はカラスの繁殖期にあたり市内近隣に移動して埒にはもどってこないため。8月のように6倍にも増えたのは巣立った幼鳥が埒入したためと思われます。このころの成鳥と幼鳥は一目瞭然です。成鳥の風切羽と尾羽は換羽中で抜け落ちていてすき間が目立ちます。それに比べ幼鳥は羽が生えてから3～4ヶ月なので風切羽も尾羽もとてもきれいにそろっています。埒入するカラスは日の入前後30分に集中しています。



年末年始・施設休館(園)案内

施設名	電話番号	お休み
公園	047-346-0121	12月30日(土)～1月1日(月)
パークセンター	047-345-8900	12月28日(木)～1月4日(木)
自然観察舎	047-340-4140	12月28日(木)～1月4日(木)
アウトドアセンター (バーベキュー場)	047-385-1815 047-384-2234	12月26日(火)～1月7日(日)
カフェテラス (プレリウド)	047-347-5877	12月28日(木)～1月5日(金)
里の茶屋	047-347-6850	12月29日(金)～1月5日(金)
売店(わかば)	-	12月28日(木)～1月5日(金)
松戸市立博物館	047-384-8181	12月28日(木)～1月4日(木)
森のホール21	047-384-5050	12月29日(金)～1月3日(水)

発行日：2006年12月1日
 発行：21世紀の森と広場パークセンター
 開館：9：00～16：00
 (3月1日からは9：00～16：30)
 月曜休館(祝日開館/翌日休館)
 〒270-2252 松戸市千駄堀269
 TEL 047-345-8900
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

- ・ゴミは家までお持ち帰り下さい。
- ・なるべく公共の交通機関をご利用下さい。
- ・ペットを連れての入園はできません

